

古河文化見聞録

東日本最大級！？ 古河の製鉄・鑄造遺跡 ～川戸台遺跡～

「遺跡」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。有名なところだと、インカ帝国時代のマチュ・ピチュや、キトラ古墳の壁画などを思い浮かべる人も多いかと思います。それらは、目的や用途は違えど「昔の人々のさまざまな営みの痕跡」と言うことができるでしょう。

実は、私たちが住む古河市にも、これらの痕跡が残されている場所「遺跡」があり、市内で400カ所ほど確認されています。とはいえ、今は土の中に埋まっていて、ほとんど目で見ることにはできませんが……。

ところで、先日行われた「古河桃まつり」はご覧になりましたか。古河公方公園(古河総合公園)で毎年行われ、今年で第41回を迎えました。

今回ご紹介するのは、その公園の近く、北西方向に数百メートルほど進んだところにある「川戸台遺跡」と呼ばれる遺跡です。

発掘調査

土の中に埋もれている痕跡は、土木工事などで壊されてしまうと、再び元に戻すことはできません。年代や当時の様子を知るためには、昔から堆積してきた土の層や、そこから見つかる土器などの遺物が、その当時のままに残されている必要があります。

逆に言えば、そういったものが残されていれば、昔の様子がある程度わかってきます。やむを得ず遺跡が破壊されてしまう場合は、発掘調査を行い、その場所の土を上から少しずつ掘り、土の様子やそこから見つかったものを調べていきます。そして、どんな痕跡が見つかったのか、その痕跡がどういう意味をもつのかを、発掘調査報告書に記録します。川戸台遺跡の場合は、道路をつくる計画ができたことで、発掘調査を行うことになりました。



▲古河公方公園(古河総合公園)北西に位置する川戸台遺跡(平成29年1月撮影)



▲平成21年11月～平成22年6月に発掘調査が行われました